



SCB

金融調査情報

No.2025-17

(2025.12.11)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

研究員 間下 聡

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

最近の信用金庫と国内銀行の地区別預貸金動向

視 点

我が国経済は新型コロナウイルスへの対応、日本銀行による金融政策の変更を経てきた。米国の関税措置にも対応してきたが、日中関係悪化懸念も浮上し、今後の展開や国内経済への影響はまだ不透明さを残している。その間も推移してきた信用金庫の地区別預貸金前年同月比増減率を国内銀行とも比較しながら、最近の信用金庫の地区別預貸金動向を確認する。

要 旨

- 全国信用金庫の足元（2025年10月末）の貸出金（末残）前年同月比増減率を確認すると、プラス幅が拡大傾向にある。一方、預金は、2025年6月末に前年割れとなって以降、足元まで減少が続いている。貸出金増減率（①）から預金増減率（②）を引いた差（①－②）は、プラス幅が拡大傾向にある。
- 地区別に信用金庫の預貸金増減率の推移を追うと、貸出金は全11地区において足元で前年同月比プラスとなった。預金は、8地区（東北、東京、関東、北陸、近畿、中国、四国、南九州）で足元の増減率がマイナス（前年割れ）となっている。足元の両者の差（①－②）は、全11地区でプラスとなっており、1年前に比べて預貸率は上昇している。ここ3か月程度の貸出金増減率（①）、預金増減率（②）、両者の差（①－②）の傾向を整理すると、貸出金の増加率は、4地区でプラス幅が拡大傾向、東北で縮小傾向、残る6地区で横ばい傾向となっている。一方、預金の増減率は2地区でプラス幅拡大ないしマイナス幅縮小傾向、4地区でプラス幅縮小ないしマイナス幅拡大傾向、残る5地区で横ばい傾向となった。両者の差（①－②）は、7地区でプラス幅が拡大傾向、東北で縮小傾向、残る3地区で横ばい傾向となっている。
- 全国信用金庫と国内銀行（以下、銀行勘定のみ。）の貸出金（末残）の前年同月比増減率を比べると、信用金庫のプラス幅は2024年4月末を底に、国内銀行のプラス幅は2025年4月末を底に拡大傾向にある状況が続いているが、プラス幅は国内銀行の方が大きい。（A）信用金庫から（B）国内銀行を引いた差（（A）－（B））のマイナス幅は、2025年5月末を底に拡大傾向にある。
- 信用金庫の地区別に、貸出金増減率を比較すると、信用金庫、国内銀行のいずれも足元の増減率は全11地区でプラスとなっている。（A）信用金庫と（B）国内銀行の貸出金増減率の差（（A）－（B））は、足元、全11地区でマイナスとなっており、国内銀行の増加率が信用金庫の増加率を上回っている。
- 全国信用金庫と国内銀行の預金（末残）の前年同月比増減率を比較すると、信用金庫は、2025年6月末からマイナスでの推移となっている。一方、国内銀行のプラス幅は、2025年4月末を底に拡大傾向をたどっている。この結果、（C）信用金庫から（D）国内銀行を引いた差（（C）－（D））のマイナス幅は2025年5月末以降、拡大傾向にある。
- 信用金庫の地区別に足元の預金増減率を国内銀行と比較すると、信用金庫については前述のとおり、8地区で足元マイナスとなっている。一方、国内銀行は全11地区でプラスである。足元の（C）信用金庫と（D）国内銀行の預金増減率の差（（C）－（D））は、全11地区でマイナスとなり、国内銀行の増減率が信用金庫を上回っている。

キーワード

信用金庫 国内銀行 地区別 貸出金増減率 預金増減率 増減率差 預貸率 業態間差

目次

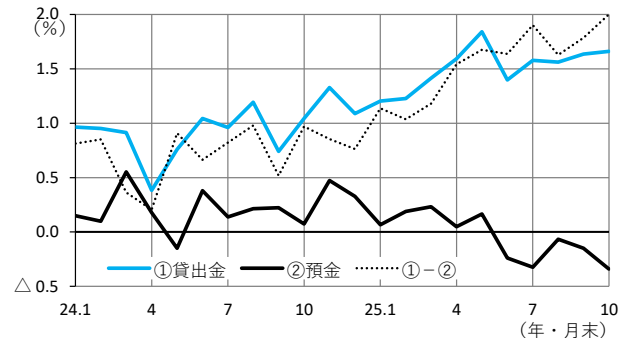
1. 信用金庫の地区別預貸金増減率の推移
 2. 信用金庫の地区別貸出金増減率の国内銀行との比較
 3. 信用金庫の地区別預金増減率の国内銀行との比較
- おわりに

1. 信用金庫の地区別預貸金増減率の推移

(1) 全国

全国信用金庫の足元（2025年10月末）の貸出金（末残）前年同月比増減率を確認すると、プラス幅が拡大傾向にある（図表1参照）。一方、預金は、2025年6月末に前年割れとなって以降、足元まで減少が続いている。貸出金増減率（①）から預金増減率（②）を引いた差（①－②）は、プラス幅が拡大傾向にある。

（図表1）全国信用金庫の預貸金（末残）前年同月比増減率および両者の差の推移



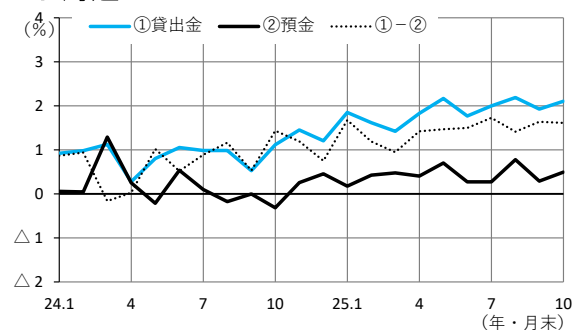
（備考）図表2、3、6、9とも信金中金 地域・中小企業研究所作成

(2) 地区別の動き

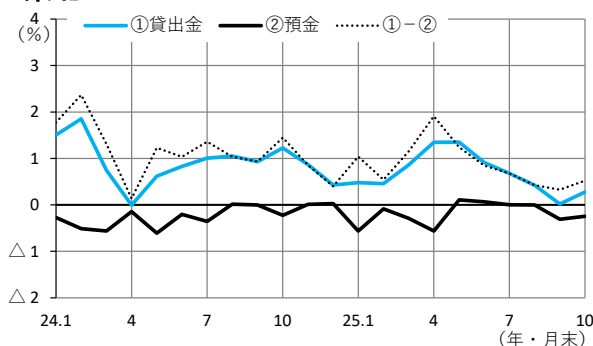
地区別¹に信用金庫の預貸金増減率の推移を追うと、貸出金は全11地区において足元で前年同月比プラスとなった（図表2参照）。預金は、8地区（東北、東京、関東、北陸、近畿、中国、四国、南九州）で足元の増減率がマイナス（前年割れ）となっている。足元の両者の差（①－②）は、全11地区でプラスとなっており、1年前に比べて預貸率は上昇している。

（図表2）信用金庫の地区別預貸金（末残）前年同月比増減率および両者の差の推移

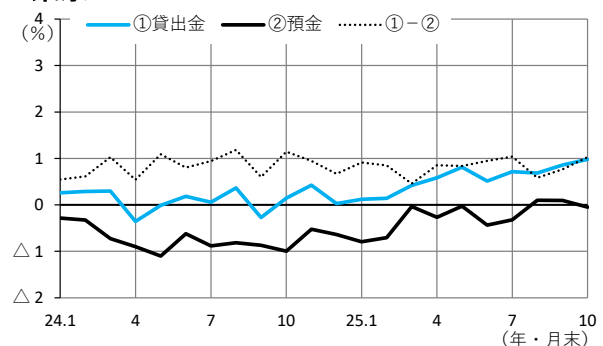
北海道



東北



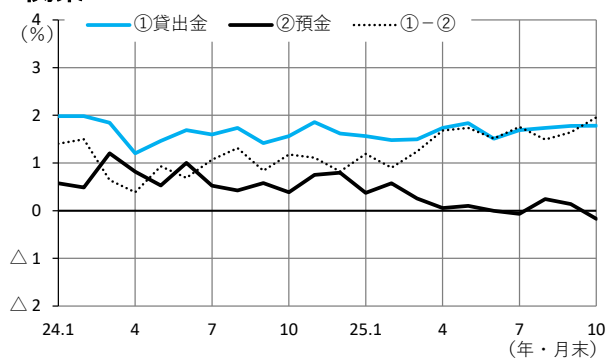
東京



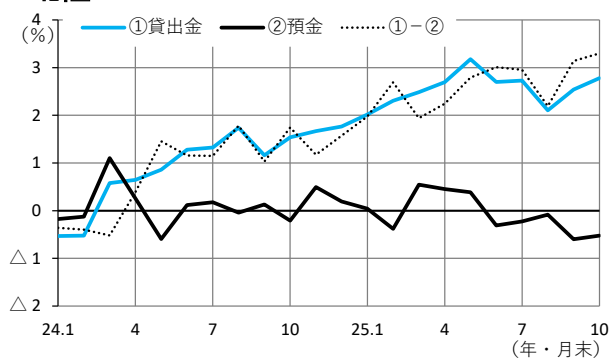
¹ 信用金庫の地区区分のうち関東は、群馬、栃木、茨城、埼玉、千葉、神奈川、新潟、山梨、長野からなる。東海は、静岡、岐阜、愛知、三重からなる。九州北部は福岡、佐賀、長崎、南九州は熊本、大分、宮崎、鹿児島からなる。

(図表2) (続き)

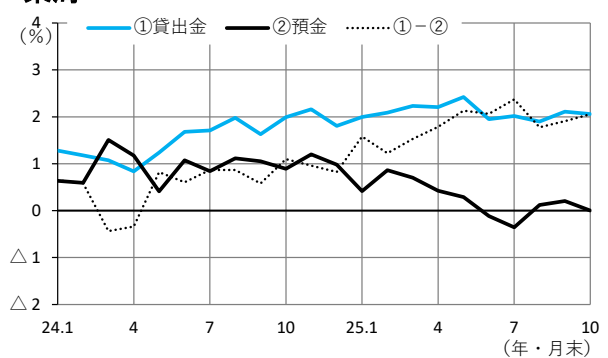
関東



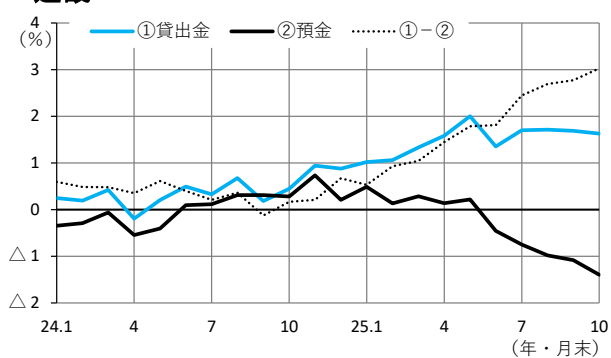
北陸



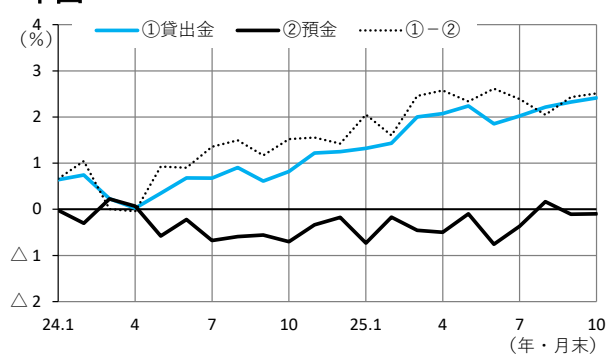
東海



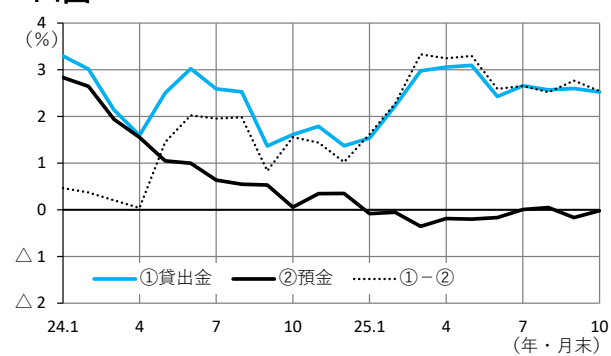
近畿



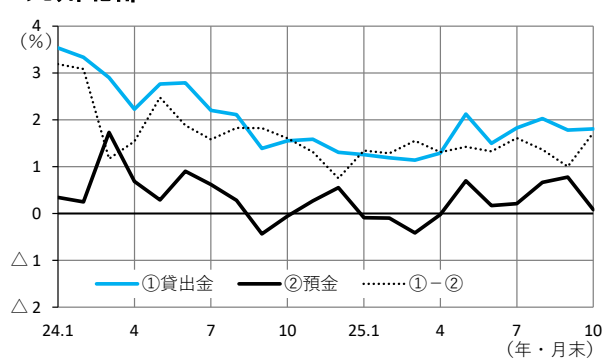
中国



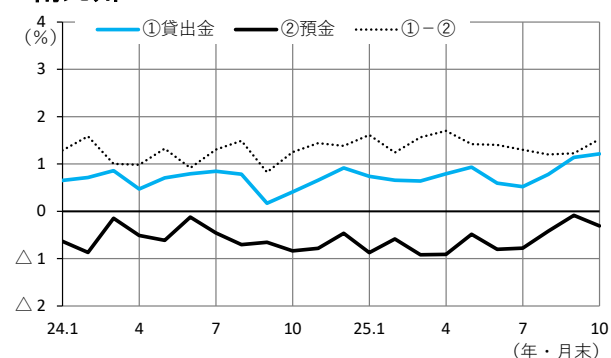
四国



九州北部



南九州



ここ3か月程度の貸出金増減率(①)、預金増減率(②)、両者の差(①－②)の傾向を**図表3**に整理した。貸出金の増加率は、4地区でプラス幅が拡大傾向、東北で縮小傾向、残る6地区で横ばい傾向となっている。一方、預金の増減率は2地区でプラス幅拡大ないしマイナス幅縮小傾向、4地区でプラス幅縮小ないしマイナス幅拡大傾向、残る5地区で横ばい傾向となった。両者の差(①－②)は、7地区でプラス幅が拡大傾向、東北で縮小傾向、残る3地区で横ばい傾向となっている。

なお、南九州では貸出金のプラス幅が拡大傾向、預金のマイナス幅が縮小傾向にあり、11地区の中で唯一、貸出金増減率(①)、預金増減率(②)、両者の差(①－②)のいずれもプラス幅拡大ないしマイナス幅縮小傾向と判断した。

(図表3) 信用金庫地区別預貸金(末残)前年同月比増減率および両者の差の傾向

	①貸出金	②預金	①－②
北海道	=	=	=
東北	▼	▼	▼
東京	△	=	△
関東	=	▼	△
北陸	△	▼	△
東海	=	△	△
近畿	=	▼	△
中国	△	=	△
四国	=	=	=
九州北部	=	=	=
南九州	△	△	△

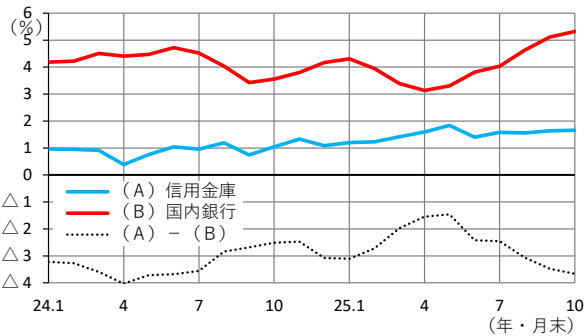
(備考) 図表6、9とも△はプラス幅拡大ないしマイナス幅縮小の傾向、▼はプラス幅縮小ないしマイナス幅拡大の傾向、＝は横ばい傾向

2. 信用金庫の地区別貸出金増減率の国内銀行との比較

(1) 全国

図表4で全国信用金庫と国内銀行(以下、銀行勘定のみ。)の貸出金(末残)の前年同月比増減率を比較する。信用金庫のプラス幅は2024年4月末を底に、国内銀行のプラス幅は2025年4月末を底に拡大傾向にあるが、プラス幅は国内銀行の方が大きい。(A)信用金庫から(B)国内銀行を引いた差((A)－(B))のマイナス幅は、2025年5月末を底に拡大傾向にある。

(図表4) 全国信用金庫および国内銀行の貸出金(末残)前年同月比増減率ならびに両者の差の推移

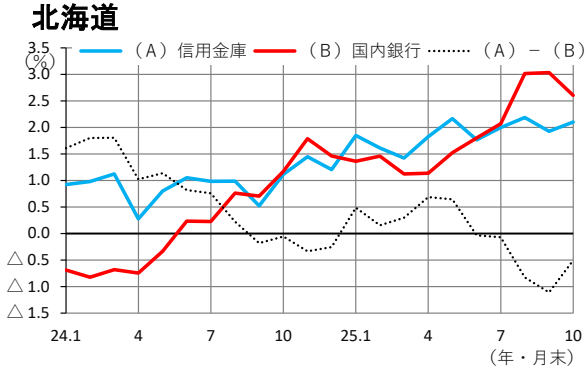


(備考) 図表5、7、8とも日本銀行資料等より作成

(2) 地区別

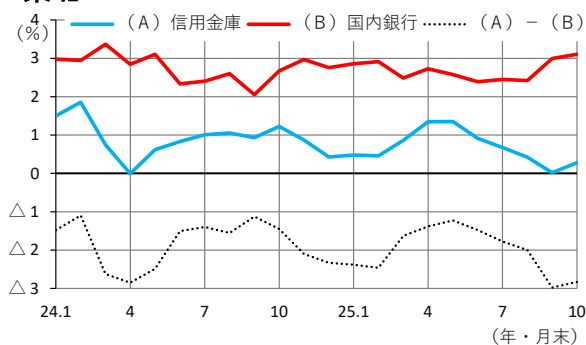
信用金庫の地区別に、貸出金増減率を比較すると、信用金庫、国内銀行のいずれも足元の増減率は全11地区でプラスとなっている(**図表5参照**)。(A)信用金庫と(B)国内銀行の貸出金増減率の差((A)－(B))は、足元、全11地区でマイナスとなっており、国内銀行の増加率が信用金庫の増加率を上回っている。

(図表5) 信用金庫および国内銀行の地区別貸出金(末残)前年同月比増減率ならびに両者の差の推移

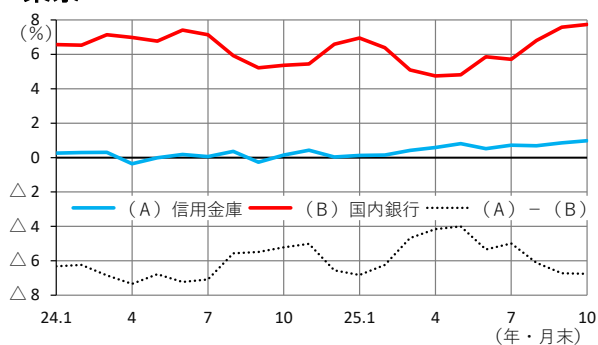


(図表5) (続き)

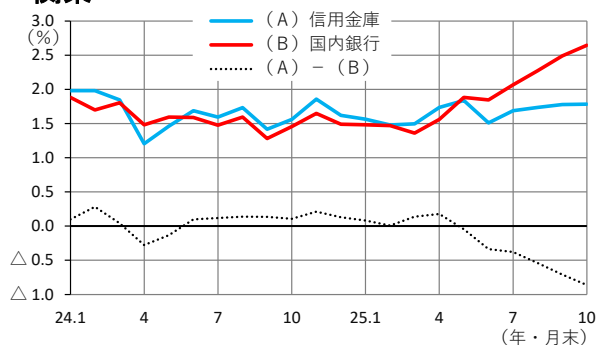
東北



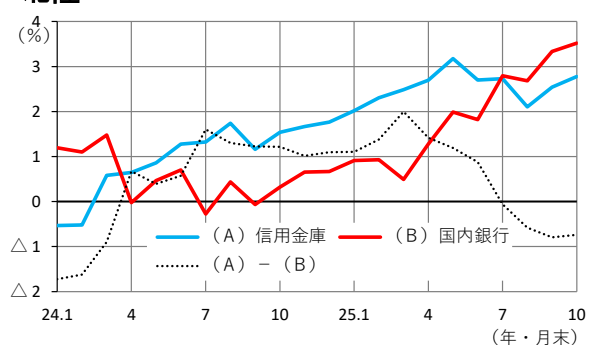
東京



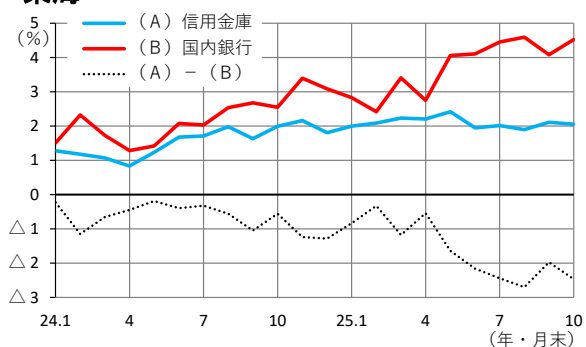
関東



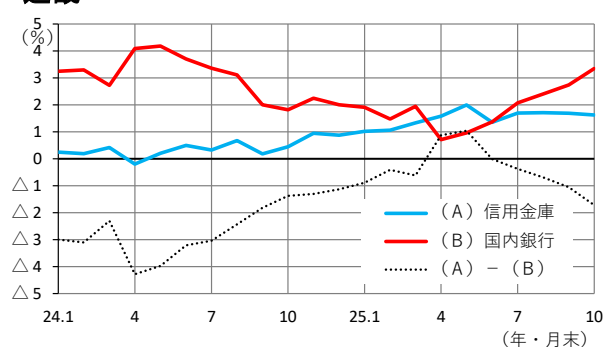
北陸



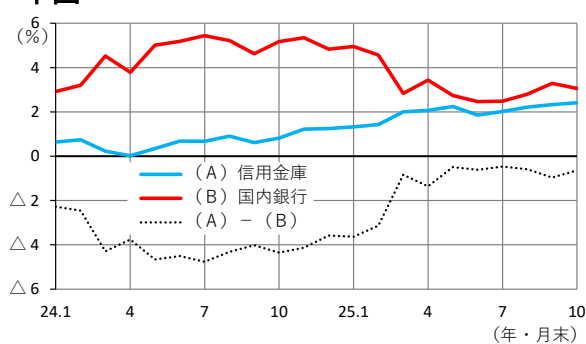
東海



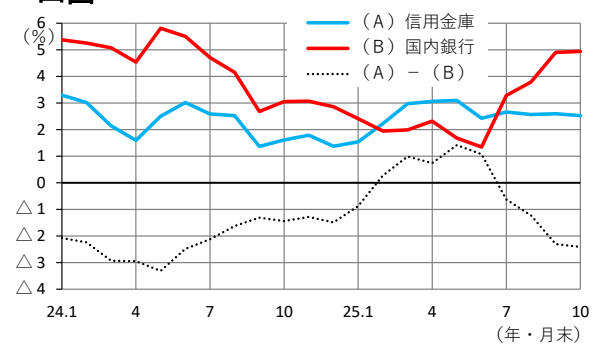
近畿



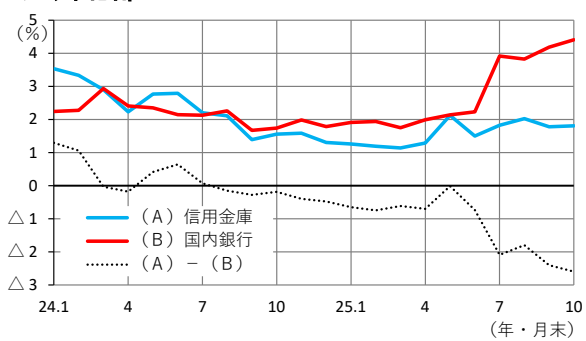
中国



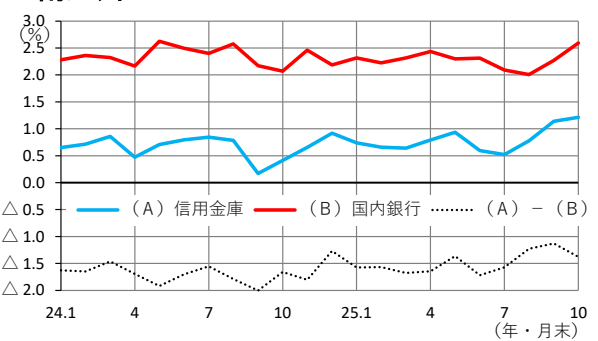
四国



九州北部



南九州



ここ3か月程度の(A)信用金庫および(B)国内銀行の貸出金増減率ならびに両者の差((A)－(B))の傾向を**図表6**に整理した。前述のとおり、(A)信用金庫については4地区でプラス幅が拡大傾向、東北で縮小傾向、残る6地区で横ばい傾向となっている。一方、(B)国内銀行は横ばい傾向の東海を除く10地区でプラス幅が拡大傾向にある。

差((A)－(B))に目を移すと、マイナス幅は南九州で縮小傾向、東海と中国で横ばい傾向となっている。しかし、残る8地区では拡大傾向にある。

(図表6) 信用金庫および国内銀行地区別貸出金(末残)前年同月比増減率ならびに両者の差の傾向

	(A)信用金庫	(B)国内銀行	(A)－(B)
北海道	=	△	▼
東北	▼	△	▼
東京	△	△	▼
関東	=	△	▼
北陸	△	△	▼
東海	=	=	=
近畿	=	△	▼
中国	△	△	=
四国	=	△	▼
九州北部	=	△	▼
南九州	△	△	△

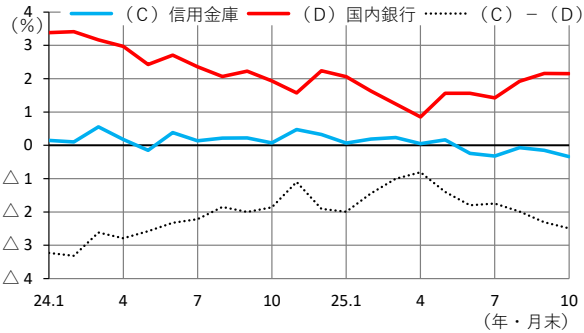
3. 信用金庫の地区別預金増減率の国内銀行との比較

(1) 全国

まず、**図表7**で全国信用金庫と国内銀行の預金(末残)の前年同月比増減率を比較する。信用金庫は、2025年6月末からマイナスでの推移となっている。一方、国内銀行のプラス幅は、2025年4月末を底に拡大傾向をたどっている。

この結果、(C)信用金庫から(D)国内銀行を引いた差((C)－(D))のマイナス幅は2025年5月末以降、拡大傾向にある。

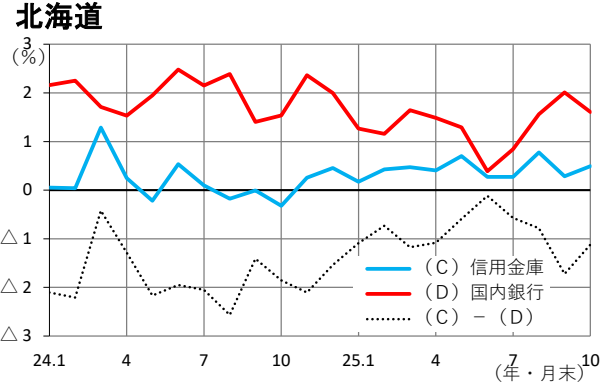
(図表7) 全国信用金庫および国内銀行の預金(末残)前年同月比増減率ならびに両者の差の推移



(2) 地区別

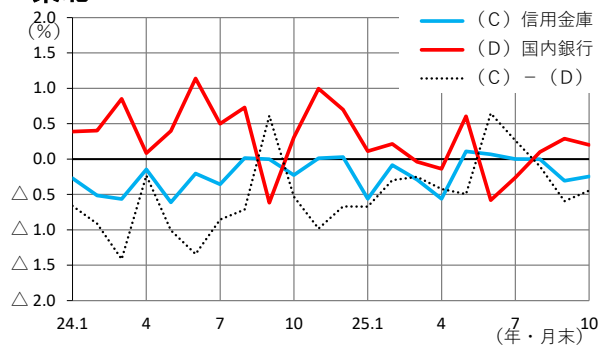
信用金庫の地区別に足元の預金増減率を国内銀行と比較すると、信用金庫については前述のとおり、8地区で足元マイナスとなっている**(図表8参照)**。一方、国内銀行は全11地区でプラスである。足元の(C)信用金庫と(D)国内銀行の預金増減率の差((C)－(D))は、全11地区でマイナスとなり、国内銀行の増減率が信用金庫を上回っている。

(図表8) 信用金庫および国内銀行の地区別預金(末残)前年同月比増減率ならびに両者の差の推移

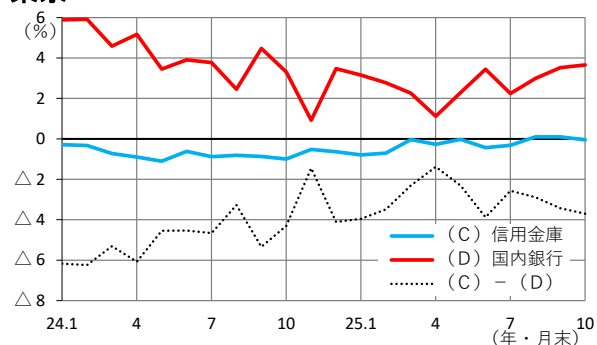


(図表8) (続き)

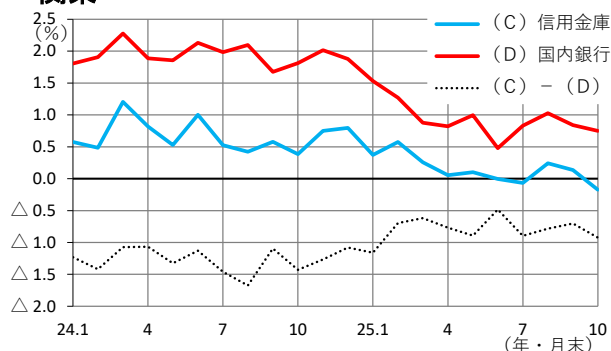
東北



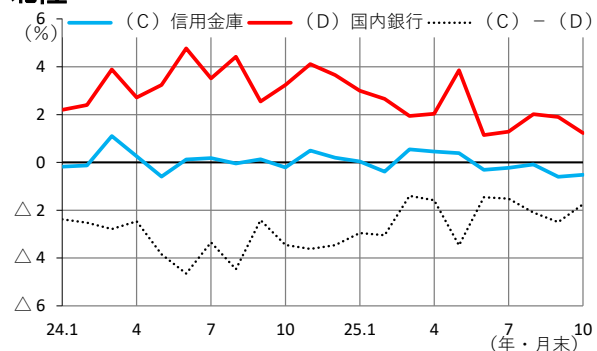
東京



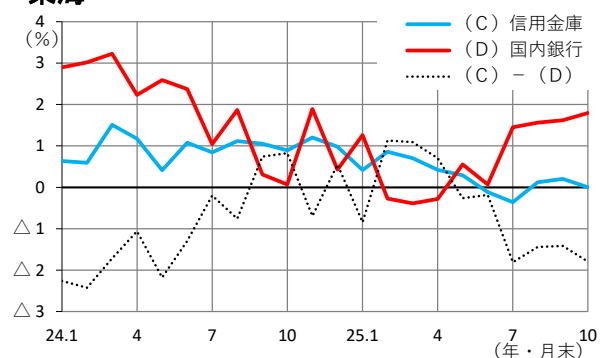
関東



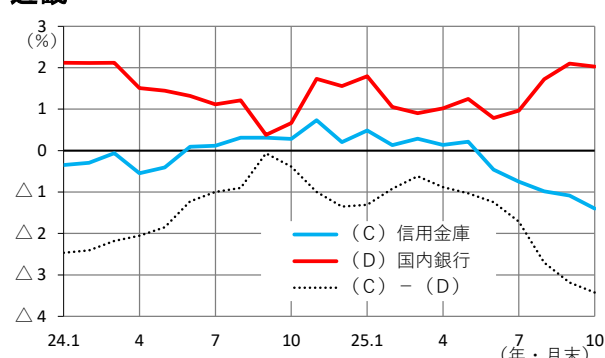
北陸



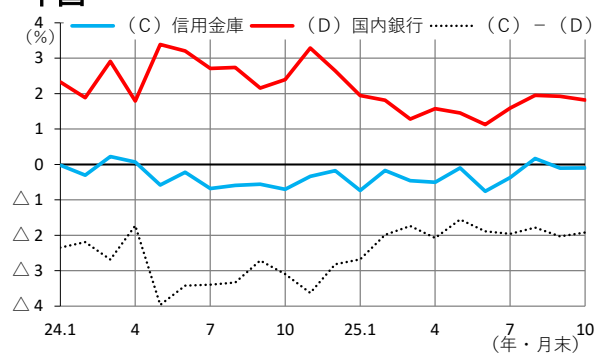
東海



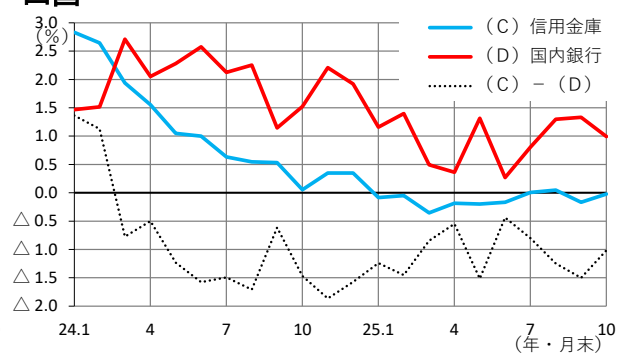
近畿



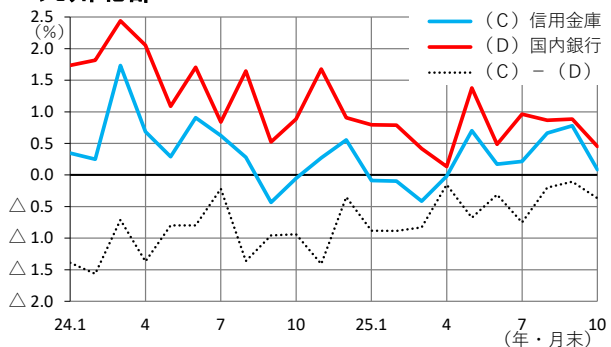
中国



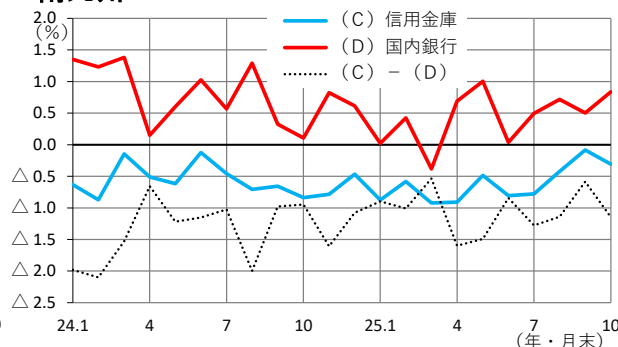
四国



九州北部



南九州



ここ 3 か月程度の (C) 信用金庫および (D) 国内銀行の預金増減率ならびに両者の差 ((C) - (D)) の傾向を、**図表 9** に整理した。前述のとおり、(C) 信用金庫については 2 地区でプラス幅拡大ないしマイナス幅縮小傾向、5 地区で横ばい傾向、残る 4 地区でプラス幅縮小ないしマイナス幅拡大傾向となっている。一方、(D) 国内銀行のプラス幅は、3 地区で縮小傾向、中国で横ばい傾向、残る 7 地区で拡大傾向にある。両者の差 ((C) - (D)) のマイナス幅は、2 地区で縮小、4 地区で横ばい、残る 5 地区で拡大の傾向にある。

(図表 9) 信用金庫および国内銀行地区別
預金（末残）前年同月比増減率
ならびに両者の差の傾向

	(C) 信用金庫	(D) 国内銀行	(C) - (D)
北海道	=	△	▼
東北	▼	△	▼
東京	=	△	▼
関東	▼	▼	=
北陸	▼	▼	=
東海	△	△	=
近畿	▼	△	▼
中国	=	=	=
四国	=	△	▼
九州北部	=	▼	△
南九州	△	△	△

おわりに

以上みてきたとおり、足元の信用金庫の貸出金は全地区で前年比プラスとなる一方、預金は 8 地区でマイナスとなっている。増減率は全地区で貸出金が預金を上回っており、その結果、預貸率が前年比で上昇し、全国ベースで 50.4% となっている。

収益を稼ぐ元手ともいえるべき預金が前年割れとなる地区が目立つのは、気掛かりな動きといえる。預金の減少については、人口減少、相続預金のエリア外への移転、金利選好に伴う他業態への預替えや預金以外の金融商品への乗換えなどの要因が挙げられている。信用金庫の経営環境はさまざまに異なっているため、預金の増加ペースの低下や減少について、信用金庫ごとの要因を探るとともに、対応について検討することが肝要と言えよう。

また、貸出金については、多くの地区で堅調に増加しているものの、東北では 2025 年 6 月末から 9 月末に金融業・保険業向けの伸び悩みを背景に増加率が大きく低下している。こうした点を含め、動向を引き続き注視する必要がある。

以 上

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。